

【次期地域戦略における改定ポイント】

- 緑の保全・創出の取組に加え、生きものの生息・生育環境の維持回復の取組を強化
- 東京の自然資源の持続的な利用や自然への理解と配慮行動を促すことで、自然の保全・回復につなげる視点を追加
- 東京の生物多様性に関わる各局横断的かつ中長期的な総合計画として地域戦略を改定

生物多様性に関する3つの課題

I 自然環境の劣化

- ・宅地化等による農地などの緑の減少
- ・生きものの生息・生育環境の悪化 など

⇒自然環境の保全を進め、水と緑のネットワークを強化することで、生物多様性の保全・回復や自然が持つ減災機能の活用も図っていくことが必要

II 人と自然の関係の希薄化

- ・保全の担い手減少や知識・技術の消失
- ・若者の自然との触れ合いや関心の低下 など

⇒自然の持続的な利用を促進することで、自然に触れ合う機会を拡大し、自然環境の保全・回復の担い手育成や知識・技術の継承につなげていくことが必要

III 自然の価値・魅力の認識不足

- ・自然とその恩恵に対する認識が不足
- ・自然への関心が低く、自然に配慮した行動が不十分 など

⇒自然が持つ価値や魅力を整理・発信することで、社会経済活動を支える自然の役割・重要性の理解を促し、自然環境の保全や持続的な利用の行動につなげていくことが必要

長期的に目指す姿

【保全・回復】

生物多様性にも配慮した緑の創出、自然環境の保全・回復が進み、健全な水環境が維持され、生きものと共生する都市づくりが進んでいる。

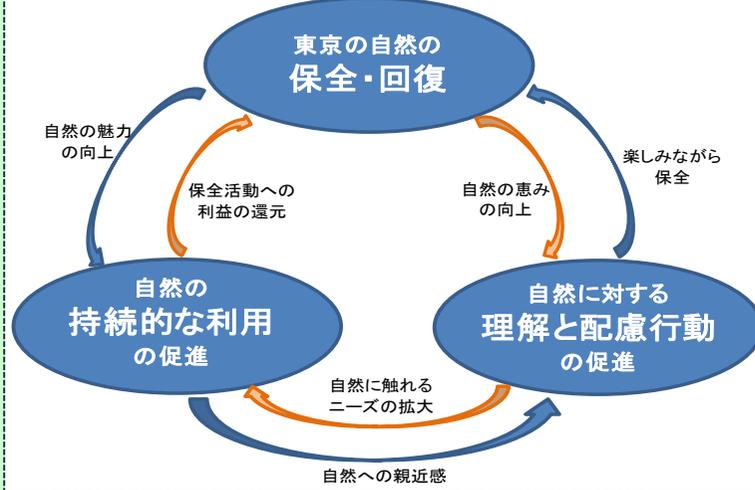
【持続的な利用】

様々な自然体験活動等により、生物多様性保全や持続可能な利用の気運が醸成され、多様な主体が連携した自然環境保全・回復活動が進んでいる。

【理解と配慮行動】

都民、企業、NPOなど、あらゆる主体が生物多様性の重要性を理解し、自然環境に配慮した行動をとっている。

【目指す好循環】



主な施策の方向性

①緑の量と質の取組強化

東京に残る貴重な緑の保全と生態系に配慮した緑化の推進、適切な維持管理

②生きものの生息・生育環境の維持回復

自然環境の科学的な情報に基づく、計画的な希少種保全、外来種防除、生きものの生息環境の維持回復

③自然の持続的な利用の促進

エコツーリズムや多摩産材の活用など、東京の自然の魅力向上や持続的な利用の促進

④将来世代の育成

環境教育等を通じた自然環境への関心の向上と将来世代の担い手拡大

⑤自然への理解と配慮行動の促進

東京の自然への理解促進や日常生活・経済活動における自然に配慮した行動変容の普及促進

⑥気候変動への対応

自然環境が持つ防災・減災機能(グリーンインフラ機能)の再認識・積極的活用